



# 「地域づくりの方向」の策定と推進

多様な主体との連携・協働による地域の将来像の実現

北海道開発局開発監理部開発計画課

平成20年度から、国の「地球環境時代を先導する新たな北海道総合開発計画」、北海道の「新・北海道総合計画」がともにスタートしています。これら両計画の地域展開を図るため、北海道開発局と北海道は、市町村や地域の民間団体等とともに「地域づくり連携会議」を道内各地域に設置し、様々な議論を行い、昨年10月末までに道南、道央等6地域毎の「地域づくりの方向」をとりまとめました。

北海道開発局は、この「地域づくりの方向」を推進する一員として、北海道等との適切な役割分担の下、国としての役割を果たすため、事業の執行を通じて、「地域づくりの方向」の本格的な推進に努めていきます。

本稿では、「地域づくりの方向」に基づく北海道開発局の取組内容を中心にご紹介します。



道央地域づくり連携会議・合同会議（平成20年10月）

## 1 「地域づくりの方向」の概要

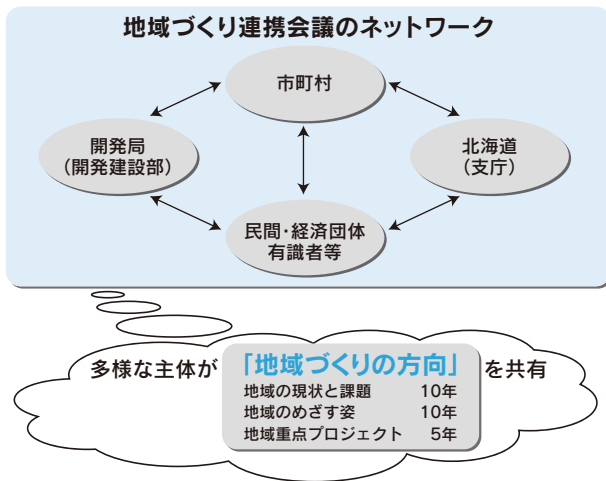
「地域づくりの方向」は、道内各地域の今後10年の方向性を示すものであり、国、地方自治体、民間団体等地域の多様な主体が役割分担し、ハード・ソフトにわたる連携・協働の取組を進めていくための共有ビジョンとなるものです。

道南連携地域、道央広域連携地域、道北連携地域、オホーツク連携地域、十勝連携地域及び釧路・根室連携地域の各地域毎に作成され、地域が抱える食、観光、

産業等様々な分野に関する「地域の現状・課題」、地域の今後10年程度を展望した「地域のめざす姿」、めざす姿の実現に向けた広域のかつ戦略的な取組である「地域重点プロジェクト」から構成されています。



「地域重点プロジェクト」では、今後5年間程度を見通して、北海道開発局や北海道が主体となって推進する食、観光、産業等様々なプロジェクト毎に、北海道開発局、北海道、市町村、民間団体が実施する主な取組が記載されています。この中で、北海道開発局の取組は、国の課題解決や地域の活力ある発展に資する観点から、地域のソフトの取組を支える基盤整備等ハードの取組等、北海道の取組は、地域の特性や特色に応じて地域に根ざした政策を展開する観点から、支庁、市町村等のソフト中心の取組等、市町村・民間の取組は、地域振興の施策等に活用する取組という役割分担がなされています。



地域づくり連携会議は、既存の「地域連携会議」を発展拡充する形で、道内14地域において平成20年6月以降順次設置されました。あわせて、複数の支庁にまたがる広域的な連携のあり方について議論するため、道南、道央広域、道北及び釧路根室地域の各地域に「地域づくり連携会議・合同会議」が設置されました。これらの会議では、地域づくりの方向のほか、地域の直面する課題や活性化のための施策について、国、北海道（支庁）、市町村のほか、新たに有識者、民間団体の関係者も加わり、適切な役割分担のもと、連携・協働を一層推進していきます。

今後、「地域づくり連携会議」においては、プロジェクト等の進捗状況等を確認して、フォローアップを実施していくこととしています。

以下では、各地域における「地域づくりの方向」のポイントを北海道開発局の取組に関連する部分を中心に紹介します。

## 2 各地域における「地域づくりの方向」

### (1) 道南連携地域

#### ◇連携地域の現状・課題

農業における担い手の減少や高齢化の進行、中心市街地の空洞化、観光入込客数の漸減傾向、観光地としての魅力向上、医師の地域偏在や特定医療科の医師不足、都市部との移動時間の短縮及び代替ルートの確保等の現状、課題があります。

#### ◇地域のめざす姿（10年後）

“北海道新幹線がむすぶ、はこぶ、ひらく。魅力あふれる「道南」の未来”

- 北海道新幹線開業で地域間交流が拡大
- 地域間を結ぶ交通・情報ネットワーク形成が大きく進展
- 独自の歴史文化や食文化がつくる魅力ある観光産業が展開

◇地域重点プロジェクト～北海道開発局の取組～

- 広域交通ネットワーク形成プロジェクト
- 食料供給力強化プロジェクト
- 魅力ある観光地形成プロジェクト
- 安心・安全な地域づくりプロジェクト 等

平成21年度の主な事業

- 函館江差自動車道函館茂辺地道路（上磯～北斗富川 5 km）〔H21供用予定〕
- 函館江差自動車道函館茂辺地道路（北斗富川～茂辺地 5 km）〔継続〕
- 函館江差自動車道茂辺地木古内道路（茂辺地～木古内16km）〔継続〕
- 函館新外環状道路空港道路（10km、自動車専用道路）〔継続〕
- 函館空港（エプロン改良、誘導路改良）〔継続〕等

(2) 道央広域連携地域

◇連携地域の現状・課題

農水産物価格の低迷などによる厳しい経営環境と担い手の確保、ものづくり産業の集積促進及び新産業の創出、魅力ある観光地づくりと広域観光ルートの形成及び海外観光客の受入態勢準備、医師数が全道平均を下回る日高地域など地域間の格差、道内外を結ぶ交通ネットワークの充実、新千歳空港の機能向上、火山観測態勢の充実等の現状、課題があります。

◇地域のめざす姿（10年後）

**“本道経済をリードし、多様な地域資源を活用した個性ある地域づくりを展開する「道央広域連携地域」”**

- 集積、連携が進んだものづくり産業が本道経済をリード
- 国内外との交流や物流が拡大
- 安全・安心な暮らしを支える基盤整備が進展

◇地域重点プロジェクト～北海道開発局の取組～

- 「食の供給力」を支える地域整備プロジェクト
- 多様な自然環境と共生した地域づくりの推進
- 活力ある地域と魅力ある観光地づくりプロジェクト
- 「安全・安心な暮らしを支える」道央圏の地域づくり
- 「北海道の玄関口」としての広域ネットワーク構築プロジェクト
- 生活圏形成ネットワークの構築プロジェクト等

平成21年度の主な事業

- 新千歳空港（エプロン新設、誘導路新設）〔新規事業箇所〕
- 苫小牧港〔東港区中央水路地区〕多目的国際ターミナル改良事業（耐震）〔継続〕
- 道央圏連絡道路（新千歳空港関連・泉郷道路・中樹林道路・美原道路・当別バイパス）〔継続〕
- 一般国道229号積丹防災（滝の潤工区0.9km）〔H21供用予定〕
- 日高自動車道〈門別厚賀道路（20km）・厚賀静内道路（15km）〉〔継続〕
- 千歳川の遊水地〔H21着工〕 等

(3) 道北連携地域

◇連携地域の現状・課題

農産物の付加価値向上と担い手対策、空き店舗の増加と中心市街地の空洞化、自然環境や農林水産資源を生かした通年・滞在型の観光の促進、医師の確保と救急医療体制の確立、交通・情報ネットワークの整備、留萌・稚内港の活用、稚内空港の機能向上等の現状、課題があります。

◇地域のめざす姿（10年後）

**“道北の広大な土地と恵まれた資源を生かした産業が展開し、豊かで安心して暮らせる地域”**

- 地域の特性を生かした産業が展開
- 地域間を結ぶ交通・情報ネットワーク形成が進展
- 環境と調和した、安全・安心な地域づくりが進展

◇地域重点プロジェクト～北海道開発局の取組～

- 上川の農水産物供給力向上プロジェクト
- 留萌・宗谷の農業・水産供給力向上プロジェクト
- 道北広域観光活性化プロジェクト
- 豊かな自然環境保全プロジェクト
- 安全・安心な地域づくり防災力向上プロジェクト
- 広域交通ネットワーク形成プロジェクト 等

平成21年度の主な事業

- 北海道縦貫自動車道（士別剣淵～名寄24km）〔継続〕
- 旭川紋別自動車道上川上越道路（上川天幕～浮島10km）〔H21供用予定〕
- 旭川十勝道路富良野北道路（6 km）〔H20事業化箇所〕
- 深川留萌自動車道幌糠留萌道路（13km）〔継続〕
- 留萌川大和田遊水地、留萌ダムの建設〔H21完成予定〕
- 国営農地再編整備事業富良野盆地地区〔H20事業化箇所〕 等

(4) オホーツク連携地域

◇連携地域の現状・課題

農業における重粘土等の特殊土壌への対応、適正な輪作体系の確立、森林資源の適切な管理体制の確立、低気圧被害によるホタテガイ生産量減少への対策、郊外型大型店の進出等による中心市街地の空洞化の進行、知床等における自然環境と観光の調和及び通年・滞在型の観光地づくり、高速交通ネットワークの整備、地域の自治体病院等の医師不足等の現状、課題があります。

◇地域のめざす姿（10年後）

“豊かな地域資源を有し、自然と共生する快適な暮らしが広がる「オホーツク連携地域」”

- 食料供給力と国際競争力が強化
- 暮らしや産業を支える交通・情報ネットワークが形成
- 知床など特色ある自然を生かした環境と調和する観光が展開

◇地域重点プロジェクト～北海道開発局の取組～

- 食料供給力・競争力強化プロジェクト
- 観光交流推進プロジェクト
- 安全・安心・快適な地域づくりプロジェクト
- 広域交通ネットワーク形成プロジェクト
- オホーツク環境保全プロジェクト 等

平成21年度の主な事業

- 旭川紋別自動車道白滝丸瀬布道路（白滝～旧白滝6 km）〔H21供用予定〕
- 北海道横断自動車道（足寄～北見79km）〔継続〕
- 国営かんがい排水事業雄武中央（二期）〔継続〕
- 能取漁港、サロマ湖漁港〔継続〕 等

(5) 十勝連携地域

◇連携地域の現状・課題

輸入農産物の増加等による価格の低迷、飼料価格等の高騰、郊外型大型店の進出等による中心市街地の集客力の低下、日帰りや通過型が主体で夏季に集中している観光、郡部の産婦人科や精神科の医師不足など地域間格差の拡大、高速交通ネットワークの整備、とち帯広空港のさらなる機能拡充等の現状、課題があります。

◇地域のめざす姿（10年後）

“～売り込む・呼び込む・生きる～高速交通ネットワークで結ばれる道東の拠点「十勝」”

- 食糧自給率の向上と国際競争力の強化

- 北海道横断自動車道開通などにより進む道東の拠点化
- 豊かな食と自然を生かした滞在周遊型観光地づくりが進展

#### ◇地域重点プロジェクト～北海道開発局の取組～

- 広域交通ネットワーク形成プロジェクト
- とかち「食料供給力」強化プロジェクト
- 観光資源ネットワーク化プロジェクト
- 災害に強い とかちづくりプロジェクト 等

#### 平成21年度の主な事業

- 北海道横断自動車道（本別～釧路65km）〔継続〕
- 帯広広尾自動車道中札内大樹道路（中札内～大樹23km）〔継続〕
- 十勝港〔内港地区〕多目的国際ターミナル整備事業〔継続〕
- 直轄明渠排水事業利別川左岸地区〔新規事業箇所〕
- 国営農地再編整備事業中鹿追地区〔新規事業箇所〕 等

### (6) 釧路・根室連携地域

#### ◇連携地域の現状・課題

農水産物の付加価値化と飼料自給率の向上、経営体質・担い手対策の強化、資源管理型漁業・栽培漁業の推進による資源の維持増大、空き店舗増加による中心市街地の空洞化、広域観光の促進及び観光客の受け入れ態勢の整備、医療従事者の地域への確保、北海道横断自動車道、地域高規格道路の整備、空港・港湾整備の充実・安全性の向上等の現状、課題があります。

#### ◇地域のめざす姿（10年後）

“地域の人々が協力・連携しながら、地域資源を生かした新たな発展を目指す「釧路・根室」～環境と共生し、住みたくなるまちづくり～”

- 自然環境や恵まれた農水産物を生かした安全安心な消費者から信頼される食産業が展開
- 暮らしや産業を支える交通・情報ネットワークの形成
- 安全・安心で心豊かな地域社会が形成

#### ◇地域重点プロジェクト～北海道開発局の取組～

- 地域食産業高付加価値化プロジェクト
- 地域観光産業振興プロジェクト
- 地域環境充実プロジェクト
- 東アジア関係強化プロジェクト 等

#### 平成21年度の主な事業

- 北海道横断自動車道（本別～釧路65km）〔継続〕
- 一般国道38・44号釧路外環状道路（17km、自動車専用道路）〔継続〕
- 一般国道44号根室道路（7km、自動車専用道路）〔継続〕
- 釧路港〔西港区〕多目的国際ターミナル整備事業〔継続〕
- 国営環境保全型かんがい排水事業別海南部地区〔継続〕 等

## 「地域づくりの方向」について ～北海道開発局における新たな北海道総合開発計画の地域展開～

- 平成20年度から国の「地球環境時代を先導する新たな北海道総合開発計画」、北海道の「新・北海道総合計画」がともにスタートしたことを受け、両計画の地域展開を図るため、北海道開発局と北海道は、市町村、地域の経済団体等とともに「地域づくり連携会議」を道内各地で開催し、平成20年10月末までに「地域づくりの方向」を合意。
- 「地域づくりの方向」は、今後10年の各地域の方向性を示すものであり、「地域の現状・課題(10年)」、「地域のめざす姿(10年)」、「地域重点プロジェクト(5年)」から構成され、地域の多様な主体が連携・協働の取組を進めていくための共有ビジョンとなるもの。
- この「地域づくりの方向」を踏まえ、地域の多様な主体が役割分担をし、ハード・ソフトの連携・協働の取組を推進。
- 今後、同会議でプロジェクトの進捗状況等を確認しフォローアップを実施。



※ 6 連携地域毎に作成

### 「多様な主体の連携・協働による地域づくり」

(多様な主体の参画による地域づくり検討の場の設置)

「地域づくり連携会議」(支庁単位)、「地域づくり連携会議・合同会議」(連携地域単位)を設置  
(構成員～開発建設部長、支庁長、市町村長、民間(商工会議所、農協、漁協、観光連盟等))

### 「地域づくりの方向」

地域の現状・課題 (10年)

地域のめざす姿 (10年)

#### 地域重点プロジェクト (5年)

産業

食

環境

観光

ネットワーク

安全安心

等

北海道開発局

北海道

市町村・民間

- 国の課題解決や地域の活力ある発展に資する観点
- 地域のソフトの取組を支える基盤整備等

- 地域の特性や特色に応じて地域に根ざした政策を展開する観点
- 支庁、市町村等のソフト中心の取組等

- 地域振興の施策等に活用

毎年度進捗状況を確認